

# 震災で源泉枯れる

## 弥彦・観音寺温泉

### 供給先にも影響 所有の旅館廃業

東日本大震災で、約1000年の伝統を誇る弥彦村の観音寺温泉の源泉が枯れた。源泉を所有する旅館「長生館」は3月末で廃業に追い込まれた。かけ流しの湯で、地元住民や弥彦神社の参拝客らに人気の名湯だっただけに、ファンから惜しまれている。また、この源泉から供給を受けていた周辺の旅館も、震災による宿泊客激減に加えたダブルパンチに頭を抱えている。

【黒田阿紗子】

#### ◆地震直後に枯渇

3月11日、長生館の5代目、中村一彦さん(54)はフロントで消防設備の点検作業に立ち会っていたところ、長い横揺れに見舞われた。すぐに客室や浴室を点検し、最後に屋外にある源泉の井戸のふたを開け、言葉が失った。約3以下の底まで湯がからっぽだった。地下約80㍊の湯脈までケーブルを通す簡易

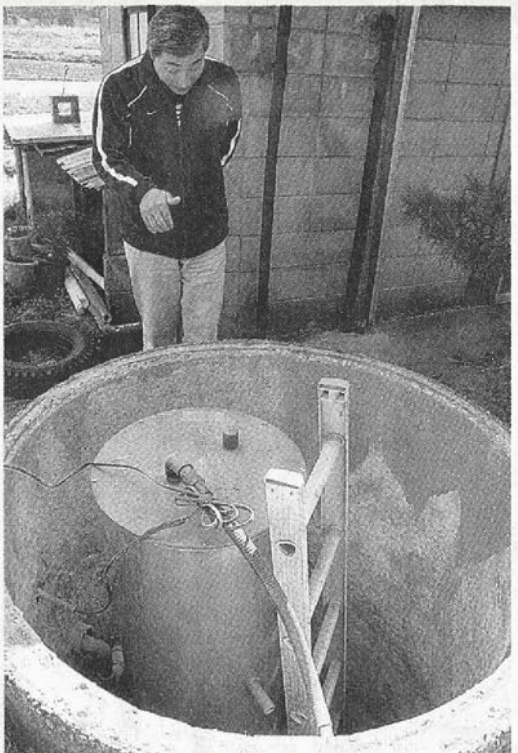
検査を試みたが、十数㍊地点で遮られ、「再び自然にわき出る可能性はゼロに近い」と判定された。04年の中越地震、07年の中越沖地震では逆に湯かさが増えたといいい、中村さんは「まさか震源が遠い地震で枯渇するとは」と驚きを隠さない。

◆弥彦温泉郷の礎  
観音寺温泉は平安時代の1084年に自噴の源泉を使用。弥彦温泉郷の礎を築いてきた。廃業したが、源泉は

たどされる。同館は1887(明治20)年に開業。含硫黄ナトリウム塩化物泉で、作曲家の故遠藤美さんら多くの著名人が好んだことで知られる。

07年11月に村が新たに掘削した源泉・湯神社温泉の供給が始まるまで約40年間、村内すべての温泉旅館がこの源泉を使用。弥彦温泉郷の礎を築いてきた。廃業したが、源泉は

埋めずに休止すると、県に届け出た。再び自噴するかも、との期待を込めた。中村さんは



東日本大震災の直後に枯渇した源泉の井戸の底を見下ろす中村さん(左)弥彦村観音寺で

## きょう告示 5町村議選

### 防災、原発、観光が焦点

## 統一選

統一地方選後半戦の

対し、これまでのところ63人が立候補の準備を進めている。弥彦、粟島浦の両村議選は無投票となる公算が大きい。也の3町村議選も

## 地 再開発へ協議会

大口は二つのシレを

「温泉は自然の恵みだからこそ、自然災害による最後は仕方ない」と自らを納得させるように話した。

#### ◆温泉表記返上も

観音寺温泉の源泉から長年供給を受けてきた村内4軒の温泉旅館も打撃を受けている。「上州苑」では、震災の日から水道水を加熱して代用。同館の責任者は「自粛ムードで団体客のキャンセルが相次いでいるのに、温泉自当の客足まで遠のき、二重苦だ」と嘆く。供給先の源泉を交

えるにも「配管工事の費用がまかなえない。温泉宿の看板を返上せざるを得ないかも」という。同じく震災以降、水道水を利用している「真加屋ハウス」も温泉の提供をあきらめるという。

## 避難者 過半数移動希望 2034世帯5000人 県が住環境

県は18日、東日本大震災による県外からの避難者に対して行った、新たな避難先への入居についての意向調査の結果を発表した。調査は、県内の全避難所と知人宅などで生活している避難者2034世帯約5000人を対象に行った。

同じ世帯の中でも移動を希望する人と希望しない人に分かれたケースもあったため、合計は一致しないが、過半数の1130世帯が移動を希望しないと回答。現在の避難先から

新潟市中央区の市体育館で避難生活を送る福島県浪江町の男性会社員(45)は、中学3年の長男(14)と小学1年の次女(6)が近くの学校に通い始めたことから、「子どもたちの学校のこともあるので体育館が避難所となっている間はお世話になりたい。ここには新聞など

栄館は20リタンクに貯水していたため、あと1カ月程度は観音寺温泉の最後の湯を楽しめるといふ。

E 市内2大所の避難所を閉鎖し、113世帯362人が月岡温泉の旅館に移動した。

全く信用できず6～9年では?

原発事故収束工程 また、東京電力が福島第1原発事故の収束に6～9カ月間かかるとの収束工程表を示したことについて、新潟市西区の西総合スポーツセンターに避難して

性、自粛ムードで打撃を受けている観光業を立て直しなどが焦点になりそう。

各町村議選の定数と立候補予定者数は弥彦

午後5時、各町村選管で受け付ける。17日に告示された5市議選とともに24日に投票が行われ、即日開票される。【塚本恒】

は依然、未定という。当初、大和はビルを売却する考えだったが、価格面などで折り合いがつかず、断念。地権者と共同で再開発を進めるという方針転換を2月4日に発表した。